

札幌キャンパスを駆け抜けるー北海道マラソン2019ー
令和元年度オープンキャンパスを開催
「北海道大学進学相談会」を東京で開催
教育関係共同利用拠点に本学の2拠点が再認定





北海道マラソン2019



北海道大学進学相談会

■ 全学ニュース

- 1 札幌キャンパスを駆け抜けるー北海道マラソン2019ー
- 2 令和元年度オープンキャンパスを開催
- 3 「北海道大学進学相談会」を東京で開催
- 4 令和元年度事務局防災研修（クロスロード研修）を開催
- 5 教育関係共同利用拠点に本学の2拠点が再認定
- 6 北大フロンティア基金
- 8 「国民との科学・技術対話」推進に関する研究支援事業に21名の研究者が参加
- 10 アフリカ地域持続可能な開発目標センター ベライ総裁らが本学を来訪
- 11 令和元年度教員免許状更新講習を開催
- 12 新渡戸カレッジ基礎・オナーズプログラム大学院教育コース2019年度第1回メンターフォーラムを開催
- 13 令和元年度北海道大学鈴木章記念賞ー自然科学実験ー被表彰者の決定
- 13 令和元年度小島三司奨学金受給者の決定
- 14 「イノベーション・ジャパン2019」に出展
- 15 情報セキュリティセミナーを開催
- 16 国際連携研究教育局（GI-CoRE）ビッグデータ・サイバーセキュリティグローバルステーション（GSB）主催の「ビッグデータ・サイバーセキュリティ・IoTに関する国際シンポジウム」を開催
- 17 国際連携研究教育局（GI-CoRE）量子医理工学グローバルステーションが第7回国際シンポジウムを開催
- 18 国際連携研究教育局（GI-CoRE）量子医理工学グローバルステーションが第2回放射線生物サマースクール及び第6回医学物理サマースクールを開催

■ 部局ニュース

- 19 法学研究科・附属高等法政教育研究センター公開講座「外国人の流入と日本社会の変容」が終了
- 20 サマーセミナー「最新の知的財産訴訟における実務的課題ー著作権・不正競争・意匠・商標編ー」を開催
- 21 地域経済経営ネットワーク研究センター（REBN）セミナーを開催
- 21 会計専門職大学院で日本内部監査協会と第12回共催セミナーを開催
- 22 医学部が北海道大学医学部・読売新聞連携講座「中学生のための医療体験～外科手術シミュレーション」を開催

- 22 薬学研究院が「第14回薬学研究院研究発表会」を開催
- 23 工学研究院等安全衛生管理室で企業等見学研修会を実施
- 24 国際広報メディア・観光学院がフィンランド・ヘルシンキ大学及び豪・メルボルン大学との教育・研究交流「TLLPスタディ・ウィーク」を開催
- 25 公共政策大学院が「地方議員・地方公務員のためのサマースクール」を開催ー「北海道における地域防災力向上に向けた課題と対応」について討議ー
- 26 電子科学研究所と創成研究機構グローバルファシリティセンターが共催で技術職員向けSD研修を開催
- 27 北方生物圏フィールド科学センター水圏ステーション白尻水産実験所竣工披露記念式典・祝賀会を挙行
- 28 北大農場公開2019「未来農業ロボットトラクタ」を開催
- 29 北方生物圏フィールド科学センター植物園で小学生向け公開講座「葉っぱで作る植物図鑑」を実施
- 29 「物理」「数学」「統計学」「化学」入門図書展示を開催
- 30 「北極基礎市民講座～北極の不思議 もっと知ろうその魅力～」第2回講座を開催
- 31 1960年代学生資料を大学図書館で受贈

■ レクリエーション

- 32 令和元年 第49回 札幌社会人サッカーリーグに出場
- 33 学内教職員ソフトボール大会の開催
- 34 令和元年度学内バレーボール大会の開催
- 35 教職員テニス大会の開催

■ 学内規程 37

■ 研修

- 37 令和元年度北海道地区国立大学法人等中堅職員研修

■ 表敬訪問 38

■ 人事 38

- 39 新任部局長等紹介
- 40 新任教授紹介



令和元年度事務局防災研修（クロスロード研修）



令和元年度教員免許状更新講習を開催



医学部・読売新聞連携講座「中学生のための医療体験～外科手術シミュレーション」



北方生物圏フィールド科学センター植物園小学生向け公開講座を開催

表紙：令和元年度オープンキャンパスを開催（関連記事2頁に掲載）

裏表紙：北の鉄道風景® 初秋の山線を往く特急列車

■全学ニュース

札幌キャンパスを駆け抜けるー北海道マラソン2019ー

「北海道マラソン2019」が8月25日（日）に開催され、さわやかな秋の風を受けながら、男女21,255人*のランナーが本学札幌キャンパスを駆け抜けました。

ランナーたちはレース終盤の38km付近から本学構内に入り、緑あふれるメインストリートを縦断。クラーク像を右手に眺めつつ中央ローンの木陰を通り、札幌農学校時代の正門を移設した南門からゴールの大通公園を目指しラストスパートを駆けて行きました。

2009年大会からコースに加えられた本学キャンパスには大勢の市民が駆けつけ、その温かい声援や激励が、気力を振り絞り力走する選手たちを後押ししました。

なお、本マラソンの様子は、UHB・北海道文化放送とBSフジで生中継されました。

*フルマラソンとファンラン12.1kmの出場者数

(総務企画部広報課)



総合博物館前の給水所



中央ローン横を駆け抜ける選手達



男子優勝の松本 稜選手



女子優勝の和久夢来選手（報道車両の左端）

令和元年度オープンキャンパスを開催

8月3日（土）から6日（火）までの4日間、札幌・函館の両キャンパスにおいてオープンキャンパスを開催しました。

期間中は好天に恵まれ、本学は大勢の参加者で賑わいました。

主に4日（日）に開催された「自由参加プログラム」では、高校生だけでなく、多くの保護者や市民の方々が学部・学科紹介や研究室訪問に訪れました。

また、主に5日（月）に開催された

「高校生限定プログラム」では、実験や体験ゼミ等が行われ、参加した高校生等にとっては大学における学びの一端を味わう貴重な機会となりました。

（アドミッションセンター）



参加者で賑わう構内



法学部「自由参加プログラム」の様子



医学部医学科「高校生限定プログラム」の様子

来場者数

	自由参加プログラム	高校生限定プログラム	部局等別合計
文学部	809	90	899
教育学部	421	107	528
法学部	659	89	748
経済学部	554	177	731
理学部	1,516	114	1,630
医学部医学科	356	209	565
医学部保健学科	1,034		1,034
歯学部	115	27	142
薬学部	901		901
工学部	1,207	427	1,634
農学部	766	169	935
獣医学部	581	43	624
水産学部	486	54	540
大学院環境科学院	46		46
附属図書館（本館・北図書館）	1,893		1,893
総合博物館	6,964		6,964
国際交流課（旧 国際連携機構）	75		75
大学文書館	140		140
北大キャンパスビジットプロジェクト	330		330
進学相談会、アクセシビリティ支援室	458		458
高等教育推進機構 CoSTEP		39	39
総合計〔人〕	19,311	1,545	20,856

「北海道大学進学相談会」を東京で開催

本学主催の「北海道大学進学相談会」を8月24日（土）に東京で開催しました。

本相談会は平成19年度に東京で初開催して以降、今年度で13回目の開催となります。

会場では笠原正典総長職務代理、長谷川晃理事・副学長をはじめ、各学部やアドミッションセンターの教職員、在学生等、合わせて70名超が高校生等やその保護者への説明・相談に当たり

ました。

当日は、笠原総長職務代理の挨拶及び本学の概要説明を皮切りに、長谷川理事・副学長が本学における教育の魅力について説明を行い、藤田 修アドミッションセンター副センター長による総合入試についての説明の後、山口淳二副学長（新渡戸カレッジ副校長）による新渡戸カレッジの説明、各学部教員による学部紹介等を行いました。また、並行して、全12学部のブース

や、在学生との対話コーナー等において個別相談対応を行いました。

多くの高校生・保護者等にお越しいただき、来場者数は過去最多の1,483人となりました。

進学相談会は、10月6日（日）に大阪でも開催します。

（アドミッションセンター）



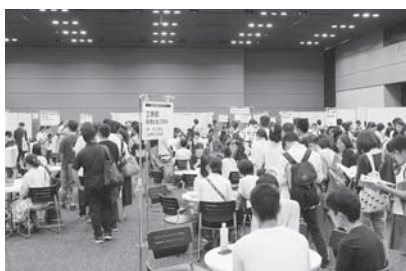
笠原総長職務代理による概要説明



長谷川理事・副学長による説明



副学長と話そうコーナー



来場者で賑やかな会場内



学部相談ブースの様子



北大生と話そうコーナー

令和元年度事務局防災研修（クロスロード研修）を開催

8月6日（火）、本学百年記念会館大会議室において、令和元年度事務局防災研修（クロスロード研修）を開催しました。

本研修は、昨年9月に発生した北海道胆振東部地震での被災経験を踏まえ、本学構成員一人一人が平時から大規模災害に対する問題意識を持ち、防災意識を向上させていくことを目的として、本学のリスク管理・危機管理担当の山崎淳一郎産学・地域協働推進機

構教授を講師として開催したものです。

災害対応はジレンマを伴う正解のない重大な決断の連続です。「クロスロード」は阪神・淡路大震災の際、神戸市職員が対応を迫られた厳しい判断状況を素材として作成されたものであり、ゲームを通して、災害対応を自らの問題としてアクティブに考え、自分とは異なる意見・価値観を学ぶ防災教材です。

本研修には、事務局職員30名が参加し、参加者の約9割が防災意識の高まりを実感する結果となりました（以下アンケート結果参照）。

総務企画部総務課では、引き続き本学構成員の防災意識の向上に努めていく予定です。

（総務企画部総務課）



講義を行う山崎教授（写真右）



「クロスロード」によるグループワーク

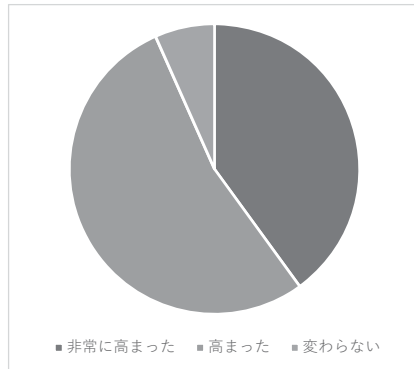


研修の様子

アンケート結果

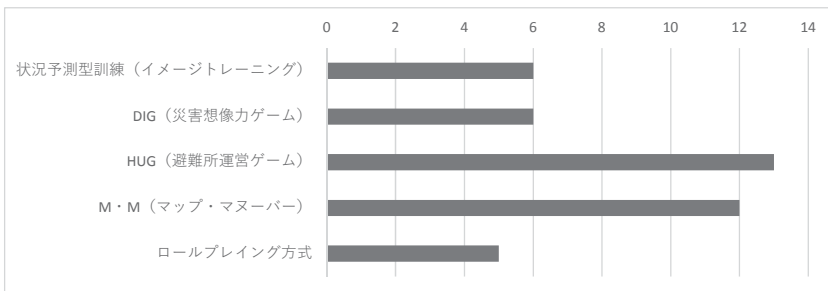
I. 本研修の受講により、災害への問題意識、防災意識は高まりましたか。

非常に高まった	12
高まった	16
変わらない	2
合計	30



II. 本研修冒頭で説明のあった以下研修について、今後受講してみたいと思う研修はありますか（複数回答）。

状況予測型訓練（イメージトレーニング）	6
DIG（災害想像力ゲーム）	6
HUG（避難所運営ゲーム）	13
M・M（マップ・マヌーバー）	12
ロールプレイング方式	5



教育関係共同利用拠点に本学の2拠点が再認定

8月15日付けで、北方生物圏フィールド科学センター水圏ステーション（白尻水産実験所、七飯淡水実験所及び忍路臨海実験所）と高等教育推進機構（高等教育研修センター）が、教育関係共同利用拠点として文部科学大臣から再認定されました。

教育関係共同利用拠点制度は、多様化する社会と学生のニーズに応えつつ質の高い教育を提供していくことを目的に、各大学が保有する施設の共同利用を推進するものであり、本学は全国最多となる以下の5拠点が認定されています。

これらの拠点の活動により、他大学との連携を強化し、多様で高度な教育を展開していくことが期待されます。

（総務企画部企画課）

認定期間	施設名	拠点名
2016.4 ～ 2021.3	水産学部附属練習船 おしよろ丸	亜寒帯海域における洋上教育のための 共同利用拠点
2017.4 ～ 2022.3	北方生物圏フィールド科学センター 森林圏ステーション	フィールドを使った森林環境と生態系 保全に関する実践的教育共同利用拠点
2017.4 ～ 2022.3	北方生物圏フィールド科学センター 水圏ステーション （厚岸臨海実験所, 室蘭臨海実験所）	寒流域における海洋生物・生態系統合 教育の国際的共同利用拠点
(今回再認定) 2020.4 ～ 2025.3	北方生物圏フィールド科学センター 水圏ステーション （白尻水産実験所, 七飯淡水実験所, 忍路臨海実験所）	食糧基地、北海道の水圏環境を学ぶ体 験型教育共同利用拠点－水圏環境・水 圏生物・技術・人間活動から未来を考 察できる人材育成－
(今回再認定) 2020.4 ～ 2025.3	高等教育推進機構 （高等教育研修センター）	教職員の組織的な研修等の共同利用拠 点－教育の内部質保証を担う大学教職 員の能力向上プログラムの開発－



白尻水産実験所での実習の様子



高等教育研修センターでの研修の様子

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を發揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動することとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報
基金累計額（8月31日現在）

24,924件 4,930,680,439円

8月のご寄附状況

法人等19社、個人225名の方々から19,721,738円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

オリンパス株式会社、医療法人社団新琴似内科クリニック、医療法人社団健心会 桑園病院、医療法人社団潮見台内科クリニック、医療法人春林会 華岡青州記念心臓血管クリニック、株式会社くいと、株式会社クレオテック、株式会社丸井足立、月島食品工業株式会社、奈井江町立国民健康保険病院、ニチレキ株式会社、北海道武蔵女子短期大学、マイランEPD合同会社、有限会社タイトス、ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	秋山 悟	秋山 友宏	安居院高志	明戸 孝夫	浅見 真生	足立 哲也	安孫子友祐
荒木 真一	荒瀬美由紀	石黒 信久	石飛 益弘	石丸 昌宏	市原 武	伊藤 明男	伊藤 和行
犬飼 悟	井原 博	今井 久雄	入澤 秀次	江藤 朋子	江本 永二	縁記 和也	太田 弘
大野るみ子	大橋 高志	大原 正範	大山 隆子	尾形 和哉	奥田 英信	奥野 和弘	小熊 理照
小田原一史	越智さと子	小内 透	笠原 寛	笠原 正典	金川 眞行	金沢 巧	金森 美子
金子 晃	上條 好恵	唐神美和子	川添 政彦	河本 充司	川本真奈美	菅野 彰一	城内 正壽
菊地 英毅	北谷 知己	工藤 俊哉	倉本 龍	栗田 順三	黒川 昭和	黒川 俊夫	小泉 守
小林 弘一	小林 正伸	近藤 誠治	紺野 哲郎	西城 一翼	齋藤 彰	斉藤 久	齋藤 秀子
坂倉 雅夫	坂本 大介	坂本 仁彦	崎山 幸雄	櫻木 正彦	佐々木芳浩	佐々木亮子	佐生 愛
佐竹 正治	佐藤 允克	三升畑元基	志濟 聡子	白津 文夫	新藤 純理	神保 重孝	杉江 和男
杉田 恵子	鈴木 貴之	鈴木 俊郎	鈴木里津子	須田 力	関口 通江	関崎 勉	関堂 充
瀬名波栄潤	平良 健康	田尾 直之	高井 保秀	高石 悟	高瀬登志彦	高橋 彩	竹内 信彦
武田 晃二	竹田 正直	武田 光弘	立花 理彦	田中 紀子	棚川 敦司	玉澤 友基	玉城 英彦
多米 豊	辻 英幸	土家 琢磨	土屋 裕	寺井伊都子	寺澤 睦	戸田 純子	豊田 威信
中島 遥香	永田 知子	中塚 英俊	中村 綾子	中村美智子	永森 久善	西田 実弘	西原 千尋
西村 洋二	根本 隆志	野村 勝	蓮本 浩介	長谷川就一	畑 健一	花輪 真	濱本 浩英
林崎 弥生	林 咲保里	東出 憲一	日比 幸人	平賀 博明	平山 実季	廣瀬 雅哉	廣山 葉月
深澤 友博	府金 孝見	福永 悟郎	船津 明	船津 定見	堀 啓一	堀岡 咲枝	堀川 泉
前久保博士	前田 朱実	前田 博	政氏 伸夫	町中 信義	松浦 弘司	松枝 大治	松田 健一
松原 謙一	松村 米紘	三浦亮三郎	三國 雅人	皆川 一志	宮城島正行	宮田 信幸	村上 幸夫
毛利 徳成	森 範行	八木 実	八島 弘典	安原 満夫	柳谷 憲治	藪内 晴弘	山口 章江
山田 森男	山本 克博	山本 道彦	山本 義男	横井 成尚	横田 恒一	横山 考	吉井 誠
吉田 広志	米田 穰	和田 昇	和田 典男				

銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

（法 人）

医療法人社団新琴似内科クリニック，医療法人社団健心会 桑園病院，医療法人社団潮見台内科クリニック，
医療法人春林会 華岡青州記念心臓血管クリニック，株式会社くいんと，株式会社クレオテック，ニチレキ株式会社，
マイランEPD合同会社，有限会社タイトス，ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社

（個 人）

荒木 真一，石黒 信久，石飛 益弘，大野るみ子，奥野 和弘，小林 弘一，小林 正伸，白津 文夫，中村美智子，
濱本 浩英，廣瀬 雅哉，松枝 大治，宮城島正行，米田 穰

感謝状の贈呈



豊田 健一 様（令和元年8月1日）



株式会社アミノアップ 様（令和元年8月7日）



鈴木 なみえ 様（令和元年8月29日）



株式会社アウレオ 様（令和元年8月29日）

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員の方によるご寄附について」にアクセスして下さい。

<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff.html>

① 給与からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（兼・給与口座からの引落依頼書）」をダウンロードし，ご記入の上，基金事務室に提出してください。

② 郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③ 現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて，基金事務室にご持参ください。

申込書は，ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか，基金事務室にもご用意していますので，基金事務室にお越しいただいてからご記入いただくことも可能です。

④ クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

(<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>) の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室（事務局・学内電話 2017）

（総務企画部広報課）

「国民との科学・技術対話」推進に関する研究支援事業に21名の研究者が参加

平成24年度から実施している、「国民との科学・技術対話」推進に関する研究支援事業、通称「Academic Fantasia（アカデミックファンタジスタ）」で

は、北海道新聞社の協力のもと、高校生を対象とした出張講義などを行っています。今年度は、ここに紹介する21名の研究者たちが、高校生に向けて最

前線の知を解説します。

(総務企画部広報課)

参加者一覧 [敬称略・順不同]

- ・ 網塚 浩 (理学研究院 教授)
「絶対零度の世界」
- ・ 正宗 淳 (理学研究院 教授)
「美しい数学がもたらす技術革新」
- ・ 塚本 尚義 (理学研究院 教授)
「はやぶさ2が明らかにする宇宙と生命の謎」
- ・ 信濃 卓郎 (農学研究院 教授)
「それでもあなたは食べないの?」
- ・ 伊藤 肇 (工学研究院 教授)
「メカノケミストリー：固体を混ぜる化学反応」
- ・ 工藤 興亮 (医学研究院 教授)
「MRIでアルツハイマー病の早期診断に挑む」
- ・ 清水 伸一 (医学研究院 教授)
「動くがんを狙い撃つ 粒子線治療の進化」
- ・ 玉腰 暁子 (医学研究院 教授)
「巷にあふれる健康情報を読み解く」
- ・ 平田 健司 (医学研究院 助教)
「AIによる画像診断」
- ・ 今内 覚 (獣医学研究院 准教授)
「動物のがん・感染症に対する新薬の開発」
- ・ 山口 未花子 (文学研究院 准教授)
「動物と話をする人々」
- ・ 秋田 弘俊 (北海道大学病院 教授)
「がんの個別化治療」
- ・ 川堀 真人 (北海道大学病院 特任准教授)
「脳・脊髄の病気に対する再生医療最前線」
- ・ 渡部 直樹 (低温科学研究所 教授)
「宇宙空間での分子の進化と氷微粒子」
- ・ 根本 知己 (電子科学研究所 教授)
「脳の不思議、心の謎」
- ・ 三澤 弘明 (電子科学研究所 教授)
「夢のエネルギー人工合成の実現に向けて」
- ・ 青沼 仁志 (電子科学研究所附属社会創造数学研究センター 准教授)
「昆虫が超高速の運動を生み出す秘密」
- ・ 長山 雅晴 (電子科学研究所附属社会創造数学研究センター 教授)
「様々な現象を数学を使って理解してみる」
- ・ 佐藤 威友 (量子集積エレクトロニクス研究センター 准教授)
「先端エレクトロニクスでエネルギーに貢献」
- ・ 加藤 博文 (アイヌ・先住民研究センター 教授)
「先住民研究としてのアイヌ民族史」
- ・ アイツバマイ ゆふ (環境健康科学研究教育センター 特任講師)
「環境中の化学物質と子どもの健康」



北海道新聞に掲載されたキックオフ広告

実施報告（7月）

小樽潮陵高校にて、北大病院 川堀特任准教授が講義

脳の血管が詰ったり破れたりすることで脳の血管に障害を起こす、脳卒中。治療やリハビリは日々進化していますが、それでもなお、多くの患者さんが後遺症に悩まされています。川堀真人特任准教授は、間葉系幹細胞（MSC）を使った脳の再生治療を研究しています。博士論文ではMSCのベストな投与方法を追求し、脳に直接投与するのが最も効果的であると結論付けました。最近では臨床研究も行われ、後遺症が大幅に改善したケースもあります。自身の研究についてわかりやすく説明した後、医師になるまでの道のりや、具体的な仕事内容も紹介しました。高校生からは、「漠然と医師になりたいと考えていましたが、今回の講義で見聞が広がってよかったです」などの感想がありました。

■日 時：7月16日（火）15:45-17:15

■会 場：北海道小樽潮陵高等学校

■参加生徒：20名（小樽双葉高等学校6名、一般1名含む）

■参加教員：川堀 真人（北海道大学病院脳神経外科 特任准教授）

講義レポートは、Facebookにて随時掲載しております。ぜひご覧ください。

@Hokkaido.univ.taiwa

<https://www.facebook.com/Hokkaido.univ.taiwa/>



自身の研究についてユーモアたっぷりに語る川堀特任准教授



多くの生徒が参加

（総務企画部広報課）

アフリカ地域持続可能な開発目標センター ベライ総裁らが本学を来訪

8月28日(水)・29日(木)、アフリカ地域持続可能な開発目標センターのベライ・ベガシャウ総裁、JICAルワンダ事務所企画調査員の正木幹生氏が本学を来訪されました。ベライ総裁と正木氏は、8月26日(月)に横浜市で開催されたTICAD7(アフリカ開発会議: Tokyo International on African Development)に出席するため日本を訪れておりましたが、この機会を活用して、本学を訪問されました。

アフリカ地域持続可能な開発目標センターは、多様性と包摂性のある社会の実現に向けて2015年に国連で採択された17の国際目標である「国連持続可能な開発目標(SDGs)」のアフリカにおける達成のために、政府・市民組織・企業・学術研究機関等を支援する国際組織です。同センターは、2016年7月にルワンダ共和国・キガリに開設されました。

まず、8月28日(水)、ベライ総裁らは、函館キャンパスを訪問されました。函館キャンパスでは、マリンサイエンス創成研究棟及び先端環境制御実験棟において、水産科学研究院の井尻成保准教授から、ティラピア等が飼育されている水槽などの説明を行いました。今年行われたハルトプライズ*で本学学生チームが提案した、『社会の課題解決のため、本学の養殖技術を活用したベンチャーを立ち上げ、雇用を創出し、食糧危機を救う』のアイデアは、井尻准教授の研究をヒントに生まれたものです。説明を聞いたベライ総裁からは、「このような研究を通して、アフリカのみではなく世界中からの留学生が高度な知識と技術を学ぶことによって、水産科学研究院が世界の

水産業に貢献している」と評価のお言葉をいただきました。

8月29日(木)には、ベライ総裁らは札幌キャンパスを訪問されました。まず、笠原正典総長職務代理を表敬訪問された後、川野辺創国際連携機構副機構長や本学国際連携業務担当者も交え、本学のスーパーグローバル大学創成支援事業に関する取り組みについて、様々な意見交換が行われました。

その後、国際食資源学院に移動し、農学研究院植物育種学研究室の貴島祐治教授から、東アフリカに向けたイネの品種育成に関する最新の研究内容の説明を行いました。引き続き、同研究室留学生(研究生)のエリアス ジョージ バリンボンヤさんからアフリカへの品種育成の意義と方法について、同じく留学生(修士課程1年)のジョセフ エナク ガルソンさんからアフリカイネとアジアイネの雑種系統の育成に成功した研究内容について説明がありました。ベライ総裁からは、緯度の異なる北海道とアフリカ地域での問題点や乾燥地域でのイネの栽培に関する質問があり、活発な意見交換が行われました。続いて、北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場に移動し、水田に栽培されている様々な水稻品種の生育状況を視察しました。

次いで、ベライ総裁らは、創成研究機構宇宙ミッションセンターを訪問し、栗原純一理学研究院特任准教授から、超小型衛星・ドローンの地球観測の活用に関する取り組みについての説明を受けた後、実物のドローンを視察しました。また、同センター長の高橋幸弘理学研究院教授から超小型衛星と地上の観測装置との連携による災害監

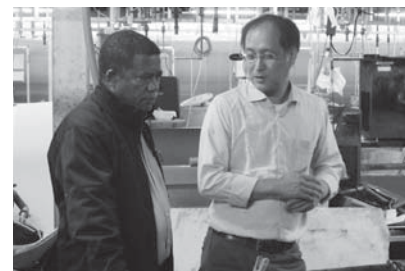
視に関する説明を受け、世界規模の超小型衛星ネットワークの実現に向けた取り組みなど、活発な意見交換が行われました。

その後、事務局中会議室に移動し、ハルトプライズの地域予選で日本勢初優勝を果たし、ロンドンでアクセラレータ・プログラム(強化合宿)を行っている本学学生チーム「AQUAMOU(アクアモウ)」との懇談をテレビ会議により行いました。ベライ総裁と懇談した「AQUAMOU」メンバー、北海道大学ハルトプライズ実行委員会の新委員長サンギータ ラトナヤーケさん(情報科学院博士後期課程1年)、旧委員長 坪井里奈さん(国際食資源学院修士課程1年)は、ベライ総裁からの激励のお言葉に感激した様子で、有意義で実りある時間を過ごしたようでした。おしまいに、今後予定しているハルトプライズプログラムでの健闘を約束し、予定していた本学での視察行程が終了しました。

*ハルトプライズ

学生のノーベル賞と呼ばれ、世界120カ国以上の大学生・大学院生が、人類の直面する社会問題を解決するための革新的な事業プランを競う世界最大規模の起業コンテスト。

(総務企画部広報課)



水産科学研究院への訪問
(左:ベライ総裁, 右:井尻准教授)



貴島教授による説明



高橋教授(奥:右から2番目)による説明



ハルトプライズ関係者と記念撮影

令和元年度教員免許状更新講習を開催

8月7日（水）から8月18日（日）にかけて、今年度の教員免許状更新講習を開催しました。

現在教員免許を持っている現職教員等は、10年ごとに設定される修了確認期限前の2年間に、大学などが開設する30時間の教員免許状更新講習（必修領域・選択必修領域においてはそれぞれ6時間、選択領域においては18時間）を受講・修了し、免許管理者（都道府県教育委員会）に申請する必要があります。本講習制度は、その時々で教員として必要な資質能力が保持されるよう定期的に最新の知識技能を身に付けることで、教員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることを目指すために、平成21年4月1日に導入されました。

平成21年度以降、本学では毎年講習を実施しており、今年度も様々な学校種の教員等を対象として、全8講習を開催しました。今年度は、必修領域の

受講者数144名、選択必修領域の受講者数147名、選択領域の受講者数278名、合計で569名の方々の参加がありました。

講習では、担当講師からのオリエンテーションの後、各テーマについての講義や実習が行われ、講習のまとめとして修了認定試験を行いました。講習後に寄せられたアンケートでは、「最新の研究の視点から教育の今日的課題について触れていただき、とても興味深い講習でした」「業務から離れ、様々な立場・職種の方と共に学べるチャンスは少ないのでとても勉強になりました。ありがとうございました」などの意見があった他、実習を主とする講習の受講者からは、「非常に興味深い内容と講義でした。実習もあり、自分のことを見つめ直すきっかけとなりました。楽しく、今後学校でも子どもたちのことを考えてあげられる内容でためになりました。ありがとうございました

いました」「専門的な内容をわかりやすく教えていただきました。小学校では“環境”の切り口で、教えていただいた事を子どもに伝えていきたい」などの意見が寄せられ、受講者にとって有意義な講習となったことがうかがえました。

なお、今年度開催した講習は以下のとおりです。

（学務部学務企画課）



「練習船による水産科学実習」の様子

領域	講習名	開設日	講習時間	定員	受講者数
必修	教育の今日的課題とその改革の方途	8/14	6時間	150人	144人
選択必修	子ども・家族理解の視点と学校の組織的対応	8/15	6時間	150人	147人
選択	配慮を要する子ども達への理解と対応	8/16	6時間	150人	146人
	歴史学・人類学の最前線	8/9	6時間	40人	39人
	心理測定実習	8/10	6時間	50人	49人
	理系の応用技術：工学の世界	8/7	6時間	50人	17人
	基礎数学のトピックス	8/13	6時間	30人	13人
	練習船による水産科学実習	8/16～8/18	18時間	16人	14人

新渡戸カレッジ基礎・オナースプログラム大学院教育コース 2019年度第1回メンターフォーラムを開催



大学院メンターと新渡戸カレッジ生

8月3日（土）、高等教育推進機構にて、2019年度第1回メンターフォーラムを開催しました。

新渡戸カレッジの大学院教育コースでは、社会の多様な分野で活躍する方々にメンターに就任いただき、プログラム履修生のキャリア意識の醸成、社会的視野の広がり、及び人的ネットワークの形成にご協力いただいています。

メンターフォーラムは、新渡戸カレッジ生が大学院修了後のキャリアを念頭に、自身にとって身近なロールモデルであるメンターとの交流を通じて、自身のキャリアパスをより具体的に考える機会として、年2回開催して

います。

当日は、第1部として講演会を行い、「キャリアパスとキャリアチェンジを考える」のテーマで、6名のメンター及び1名のゲストスピーカーに、自身のキャリアや実社会における経験に基づくアドバイス等について英語でご講演いただきました。新渡戸カレッジ生は、多様な分野でグローバルに活躍する先輩たちの話に刺激を受け、熱心に耳を傾けていました。

続く第2部は、新渡戸カレッジ生が各メンター等に自由に質問し対話を行う交流会を実施しました。新渡戸カレッジ生は大学における研究活動及び今後本格化する就職活動等について積

極的に質問し、アドバイスを得ることができました。

メンターフォーラムを通して、新渡戸カレッジ生は、大学院生活をどのような姿勢で学修・研究に取り組み、将来のキャリアデザインに繋げていくことができるか等について、貴重な洞察を得ることができました。

2019年度第1回メンターフォーラムは、6名のメンターを含む7名の方々の協力を得て実施しました。ご協力いただきました皆様に改めて御礼申し上げます。

(学務部教育推進課)



講演の様子（左：萩野 泉メンター、右：佐伯百合子メンター）



交流会におけるメンターとの対話の様子

令和元年度北海道大学鈴木章記念賞－自然科学実験－ 被表彰者の決定

この度、令和元年度北海道大学鈴木章記念賞－自然科学実験－の第1学期被表彰者4名を決定しました。

本表彰制度は、鈴木 章名誉教授のノーベル化学賞受賞を記念して平成23年に創設され、平成29年度から名称を「鈴木章科学奨励賞－自然科学実験－」から「鈴木章記念賞－自然科学実験－」とし、今回を含め57名の学生に授与されています。賞の内容は、第1年次学生が履修する全学教育科目

「自然科学実験」において、特に優秀な成績を修め、かつ本学の目指す全人教育の理念にふさわしい学生を表彰するものです。被表彰者は各学期3名程度、毎年6名程度で、高等教育推進機構長から賞状の授与及び記念品が贈呈されます。

なお、表彰式は第2学期の被表彰者と共に、令和2年3月に行います。

(学務部学生支援課)

令和元年度第1学期被表彰者

16組	恩田 昂輝
24組	岡本 大樹
27組	中里 清孝
32組	安藤 あかり

令和元年度小島三司奨学金受給者の決定

この度、令和元年度小島三司奨学金の受給者が決定しました。

本奨学金は、本学の元職員である故小島三司氏の遺志に基づき、アルツハイマー病を研究する大学院生に、奨学金を給付することにより、研究活動の充実を図り、医学の進歩に寄与することを目的として創設された、返還義務のない給付型の奨学金です。

今年度は、生命科学院から1名の推薦があり、厳正な審査を行った結果、推薦のあった1名を本奨学金の受給者として決定しました。受給者には、1年間にわたり月額5万円が給付されます。

(学務部学生支援課)

令和元年度受給者

生命科学院 齋藤 遥

「イノベーション・ジャパン2019」に出展

8月29日（木）・30日（金）の2日間、イノベーション・ジャパン2019（主催：国立研究開発法人科学技術振興機構及び国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）が東京ビッグサイト青海展示棟にて開催されました。

イノベーション・ジャパンは、大学の研究シーズと産業界の技術ニーズを

結びつける国内最大のマッチングイベントであり、今回で16回目の開催となります。展示発表は「大学組織展示」と研究者単位で行う「大学等シーズ展示」に分かれ、合計で400件を越す発表がありました。本学からは、5件のシーズ展示発表を行いました。

各ブースとも300名を越す企業関係者や研究機関関係者らが訪れ、展示内

容について熱心に質問し、意見交換を行いました。終日、人の流れは途切れることなく、本学の最先端の研究成果を産業界に広くアピール出来た2日間となりました。

（研究推進部産学連携課）

■本学出展のテーマ（下記、5展示）

【大学等シーズ展示】

〔ライフサイエンス分野〕

「化学エネルギーで動く世界最小のモーター」

代表者：大学院理学研究院 准教授 角五 彰

「新たな試験管内クロマチン再構築系の提案」

代表者：大学院農学研究院 准教授 高須賀太一

〔医療分野〕

「新素材『リン酸化プルラン』を用いた体内埋植医療製品」

代表者：大学院歯学研究院 教授 吉田靖弘

〔装置・デバイス分野〕

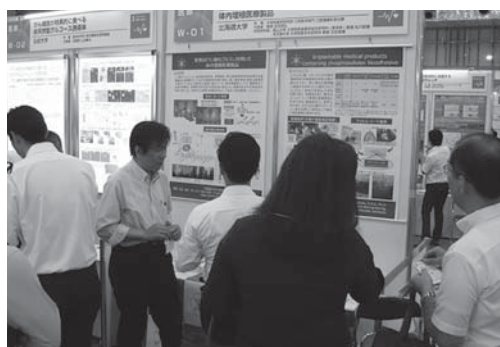
「金属酸化物など半導体材料の「同定」と品質管理のための電子トラップ密度解析装置」

代表者：触媒科学研究所 教授 大谷文章

〔低炭素・エネルギー分野〕

「革新的蓄熱マイクロカプセル “h-MEPCM”」

代表者：大学院工学研究院 准教授 能村貴宏



大学等シーズ展示の様子



ショートプレゼンテーションの様子

情報セキュリティセミナーを開催

情報環境推進本部では、7月25日（木）に、今年度第1回目の「北海道大学情報セキュリティセミナー」を学術交流会館第一会議室において開催しました。

今回のセミナーは全教職員・学生を対象とし、初心者向けの内容で企画しました。講師には、情報セキュリティ分野で幅広い活動に携わっており、本学と情報セキュリティアドバイザー契約を結んでいるトレンドマイクロ株式会社プロジェクト推進本部の今 佑輔氏を迎え、情報セキュリティについて講演いただきました。

まず、講演に先立ち、本学の情報セ

キュリティ対策の現況について、南弘征情報セキュリティ対策室長から説明がありました。

続いて今氏の講演では、わかりやすい図解でコンピュータウイルスやサイバー攻撃の実態の説明がなされ、USBメモリや昨今身近であるSNS、IoT機器におけるインシデントの危険性の説明がありました。更には本学で最も警戒しなければならないサイバー攻撃について事例を数例挙げて説明され、以下の留意点を日頃から意識することが重要である旨説明がありました。

①メールにおいて

…添付ファイルを開く前に今一度拡

張子を確認する、送信元のメールアドレスを確認する。

②Webにおいて

…ブラウザのアップデートを心がける。

③パッチ（更新プログラム）

…必ず適用しましょう（更新しましょう）。

情報環境推進本部では、本学構成員全員の情報セキュリティに対する意識向上を目指し、今後もセミナーの開催や研修会の実施等、情報セキュリティの支援に取り組んでいきます。

（情報環境推進本部）



南情報セキュリティ対策室長



今氏による講演



セミナーの様子

国際連携研究教育局 (GI-CoRE)

ビッグデータ・サイバーセキュリティグローバルステーション (GSB) 主催の「ビッグデータ・サイバーセキュリティ・IoTに関する国際シンポジウム」を開催



国外招へい者とシンポジウム関係者

8月8日(木)・9日(金)の2日間、GI-CoREビッグデータ・サイバーセキュリティグローバルステーション(GSB)主催によるビッグデータ・サイバーセキュリティ・IoTに関する国際シンポジウムを開催しました。今回のシンポジウムは第5回目の開催であり、2018年に引き続き、連携大学のマサチューセッツ大学アマースト校及びシドニー工科大学から複数の教員を招へいしての基調講演、その他の海外連携大学及び本学情報科学研究院の教員による講演、さらにGSBの活動をサポートするリサーチアシスタント(RA、博士後期課程学生)からの研究発表などでプログラムで構成されました。

シンポジウムの1日目は、笠原正典総長職務代理による開会挨拶に続き、宮永喜一グローバルステーション長から2016年に本ステーションが設立されてから現在に至るまでの活動について

報告がありました。続いて、午前の基調講演では、連携大学であるマサチューセッツ大学アマースト校Shlomo Zilberstein教授から、「AI Will Change Everything, But Not So Fast」、シドニー工科大学Eryk Dutkiewicz教授から、「Enabling Technologies for Industry 4.0: Focus on Internet of Things and Cybersecurity」と題して、講演が行われました。午後のセッションでは、マサチューセッツ大学アマースト校Amir Houmansadr助教及び浜田法行助教、シドニー工科大学Richard Xu准教授、Xiaojing Huang教授、及びPriyadarsi Nanda准教授のほか本学大学院情報科学研究院から大鐘武雄教授、吉岡真治教授、小山 聡准教授、飯塚博幸准教授、Matteo Convertino准教授から、現在研究されているテーマの最新の成果や進捗状況について発表

2日目は、マサチューセッツ大学ア

マースト校浜田助教とHoumansadr助教、及び、シドニー工科大学Huang教授、Nanda准教授がそれぞれ座長を務める4つのセッションで、17名のRA学生が研究論文の発表を行いました。さらに、特別講演として、グルノーブル大学Ankuj Arora博士(Helplicit社COE)から機械学習分野に関連し、自ら起業したHelplicit社の紹介がありました。

2日間にわたる本シンポジウムでは、オーストラリア領事館の小林 努 商務官、一般企業関係者、海外大学の学生を含め、学内外から延べ94名の参加があり、ビッグデータ・サイバーセキュリティ及びIoTにとどまらず、人工知能、機械学習のテーマに至るまで、活発な意見交換がなされ有意義な機会となりました。

(国際連携研究教育局)

国際連携研究教育局 (GI-CoRE) 量子医理工学グローバルステーションが第7回国際シンポジウムを開催



レセプションでの集合写真

GI-CoRE量子医理工学グローバルステーションは、8月18日(日)・19日(月)に、医学部臨床講義棟大講堂において、スタンフォード大学放射線腫瘍学科と合同で第7回GI-CoRE量子医理工学国際シンポジウムを開催しました。

平成26年4月に国際連携研究教育局(GI-CoRE)が設置されて以来、量子医理工学グローバルステーションでは、最先端の放射線医学、放射線生物学、医学物理分野の研究を進めてきましたが、第7回目となる本シンポジウムではスタンフォード大学のみならず、オックスフォード大学、国際放射線単位測定委員会(ICRU)、京都大学、国立研究開発法人 量子科学技術

研究開発機構をはじめとする研究機関から同分野の世界トップレベルの研究者を招へいし、白熱した議論が交わされました。

本シンポジウムは、それぞれ「超高線量率放射線治療」「モデルに基づくアプローチ」「4次元放射線治療」を主なテーマとした3つのセッションにより構成され、セッション毎にディスカッションが実施されました。参加者からも研究内容に関する多くの質問や意見が出され、活発な質疑応答及び意見交換が行われました。また、公募された一般演題には、日本、イタリア、ガーナ、台湾、ベトナム、米国などから国際色豊かな応募があり、厳正な審査の結果、13名がポスターアワードを

受賞し、レセプション中に開催された授賞式にて量子医理工学グローバルステーション長の白土博樹教授から表彰状が授与されました。

本シンポジウムには最先端の研究に従事する国内外の研究者を含む延べ190名が参加し、世界的な研究拠点としての量子医理工学グローバルステーションの更なる飛躍に寄与するディスカッションの場となったばかりでなく、これまでの集大成にふさわしいシンポジウムとなり、成功裏に幕を閉じました。

(国際連携研究教育局)



ICRU Soren Bentzen教授



会場風景



ディスカッションの様子



ポスターセッションの様子



ポスターアワード授賞式



レセプションの様子

国際連携研究教育局 (GI-CoRE) 量子医理工学グローバルステーションが第2回放射線生物サマースクール及び第6回医学物理サマースクールを開催

GI-CoRE量子医理工学グローバルステーションは、スタンフォード大学放射線腫瘍学科と合同で、8月19日(月)から22日(木)まで第2回GI-CoRE放射線生物サマースクールを、8月19日(月)から23日(金)まで第6回GI-CoRE医学物理サマースクールを開催しました。また、昨年度に引き続き、本学のHokkaidoサマーインスティテュート(HSI)2019の科目としても同時開講されました。

第2回目の開催となる放射線生物サマースクールは、台湾、フィリピン、シンガポール、インドネシア、ブラジル、及び国内から13名(うち2名がHSI科目受講生)が参加しました。本学医学研究院、獣医学研究院、病院に加え、スタンフォード大学、オックス

フォード大学、大阪大学、長崎大学からの講師を迎え、放射線生物学の基礎、応用研究、実験の実施方法などの理論と実習を網羅した包括的な講義が行われました。

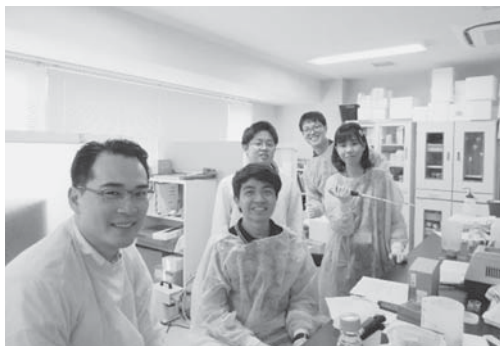
一方、第6回目の開催となる医学物理サマースクールは、米国、カナダ、ブラジル、ベトナム、フィリピン、韓国、ガーナ、タイ、イタリア、トルコ、及び国内から18名(うち8名がHSI科目受講生)が参加しました。本学医学研究院、工学研究院、保健科学研究院、病院に加え、スタンフォード大学、オックスフォード大学、国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構、株式会社日立製作所、名古屋陽子線治療センターから講師を迎え、理論のみならず最先端技術にも触れること

ができる施設見学及び少人数制による治療計画等の実習も行われました。

今年度は放射線生物サマースクール及び医学物理サマースクールの一部講義が合同で行われたことにより、幅広い分野の見識を広める機会となりました。全講義実施後の参加者アンケート調査では、両サマースクールともに大変有意義で学びの多いコースであったと好評を博すと同時に、講義や実習内容に関する様々な意見が多く寄せられました。

この経験を踏まえ、今後も若手育成プログラムの更なる発展が期待されます。

(国際連携研究教育局)



ラボでの実習



放射線生物サマースクール・HSI講師及び参加者一同



医学物理サマースクール・HSI講師及び参加者一同



オックスフォード大学 Amato Giaccia教授による講義の様子

■ 部局ニュース

法学研究科・附属高等法政教育研究センター公開講座 「外国人の流入と日本社会の変容」が終了

法学研究科及び附属高等法政教育研究センターでは、7月25日（木）から8月22日（木）までの毎週木曜日（8月15日を除く）、全4回にわたって、公開講座「外国人の流入と日本社会の変容」を開講しました。

本講座は毎年夏に一般市民を対象に開催しているもので、今年で37回目となります。毎年参加される熱心な受講者も多く、法学研究科の夏の恒例行事となっています。今回も定員50名を大きく上回る89名の受講者を得ての開催となりました。

経済のグローバル化や、出入国管理及び難民認定法（入管法）の改訂による外国人労働者の導入にみられるように、日本社会では多様な文化的背景をもつ人々が急速に増えつつあります。このことが日本の法と社会をどのように変容させるのか。また、予想される諸問題にどのように対応すべきなのか。全4回の講座では、文化的背景を異にする人々との共存・共生に必要な政策について、国際政治、法社会学、刑法学、政治理論を専攻する各講師が講演を行いました。

各講師からは、先進国で興隆するポ

ピュリズム、日常生活における異文化との接触、外国人犯罪の現状、多文化主義政策などを題材に、欧州での事例や、日本社会の現状を踏まえた多角的な考察が示されました。参加者の意欲も高く、毎回活発な質疑が行われました。講義の終了後に、講師に質問する受講者も多く、この問題に対する社会

の関心の高さを印象付けられました。

最終講義終了後に行われた閉講式では、辻 康夫高等法政教育研究センター長から所定の回数（3回以上）を受講した76名に修了証書が授与されました。

（法学研究科・法学部）



第1回 遠藤 乾教授（7月25日）



第2回 尾崎一郎教授（8月1日）



第3回 佐藤陽子准教授（8月8日）



第4回講義終了後、辻 康夫センター長より修了証の授与（8月22日）

サマーセミナー「最新の知的財産訴訟における実務的課題 —著作権・不正競争・意匠・商標編—」を開催

法学研究科では、8月15日（木）から18日（日）までの4日間、人文・社会科学総合教育研究棟において、サマーセミナー「最新の知的財産訴訟における実務的課題—著作権・不正競争・意匠・商標編—」を開催しました。

本セミナーは、日本弁理士会から弁理士の継続研修のための外部研修機関としての認定を受けて、平成21年度から毎年度開催しているものです。その実績が認められ、平成26年度には、文部科学省による「法科大学院公的支援見直し加算プログラム」の審査において、本セミナーは「知的財産法領域における社会的ニーズに即応した『実効的な継続教育プログラム』の実施」であることを理由に「特に優れた取り組み」として評価されました。

第11回目となる本年度は、外部招聘講師の清水 節氏（柳田国際法律事務

所弁護士）、青木博通氏（ユアサハラ法律特許事務所パートナー弁理士）、田村善之氏（東京大学法学政治学研究所教授／北海道大学名誉教授）、奥邨弘司氏（慶應義塾大学法務研究科教授）及び韓 相郁氏（韓国金・張法律事務所弁護士）から、知的財産法に関する実務的課題について、数々の重要裁判例を踏まえたわかりやすい講義が行われました。受講者は、知的財産事件に携わる実務家（弁理士、弁護士、企業の知的財産部員等）ばかりでな

く、大学の教員、大学院学生など幅広い分野にわたり176名となりました。

平成27年度からは、修士課程の授業としても開講されています。受講者は熱心に受講されるとともに、講義の最後の質疑応答では現実に即した様々な質問に対し、各講師は丁寧に答えていました。本年度のサマーセミナーも多くの温かい反響をいただいた中で盛会裡に終了しました。

（法学研究科・法学部）



講義初日の様子



講義を行う田村教授

地域経済経営ネットワーク研究センター（REBN）セミナーを開催

経済学研究院地域経済経営ネットワーク研究センター（REBN）では、8月21日（水）、経済学研究棟3階会議室において、西英国大学（University of the West of England）専任講師のトゥバジー・アナ・カレド先生、及び、日仏会館・フランス国立日本研究所の研究員でリヨン国立研究大学院の経済学教授のジャンパスカル・バッシノー先生との二人の報告によるセミナーを開催しました。

トゥバジー先生は、文化経済学の分野で世界的にご活躍され、2019年6月から8月まで経済学研究院の特任講師を務められました。報告では、日本語の「生きがい（IKIGAI）」概念をキーワードにして、この概念が「幸福度」をめぐる一つのユニバーサルな理念たりうるかについて、世界価値観調査のデータを用いた検証分析を示しました。分析の結果、生きがいの指標は、ランダムに抽出した世界のどの国にお

いても、生産性と主観的幸福度の両方に相関していることが示されました。

ジャンパスカル先生は、経済学研究院の外国人客員研究員として、2019年7月から8月までの約一か月滞在されました。報告では、日本の明治時代から戦前の1940年に至るまでの期間を対象に（日本の領土における植民地は考察の対象外）、各種の経済資本と自然資本と人的資本がどのように推移してきたのかを示し、その推移についての解釈を提示されました。様々な興味深いデータの推移が示されるなかで、「包括的富」に関する推移はとりわけ



トゥバジー先生

興味深いものであり、1885年から1920年にかけての日本においては、私的に所有された富やコモンズが減少する一方で、私企業や国家によって所有された富が増えていることが示されました。

本セミナーは英語のみの講演であり、参加者は15名程度でしたが、学外研究者の参加もあり、活発な議論が交わされ、有意義なセミナーとなりました。

（経済学研究院）



ジャンパスカル先生

会計専門職大学院で日本内部監査協会と第12回共催セミナーを開催

経済学院・会計専門職大学院では、8月26日（月）に、クラーク会館講堂において、一般社団法人日本内部監査協会との第12回共催セミナーを開催しました（後援：札幌証券取引所、日本公認会計士協会北海道会）。

今回のセミナーでは、日本公認会計士協会・前常務理事で公認会計士の住田清芽氏に、「独立監査人の監査をめぐる最近の動向～内部監査に係る監査基準委員会報告書の改正を中心に～」というテーマでご講演いただきました。

講演では、我が国における独立監査人の監査基準がどのように展開してきたのかを概観した上で、2018年以降に行われた重要な基準の改正趣旨及び要点について、「リスク評価」、「監査報告」及び「違法行為」という3つの視点からお話しいただきました。このセ

ミナーは、参加者の多くを内部監査関係者が占めており、また、今回は内部監査に直接関係する基準の改正が行われたことから、内部監査関係者が留意すべき改正点について詳細な解説がなされました。

今回のセミナーには、企業で内部監査に従事されている方や会計専門職大学院の学生など、道内外からおおよそ120名の参加者がありました。内部監査関係者にとっては、独立監査人との

連携をどのように図っていけばよいか、そしてそれを通じて企業経営の健全性の確保にどのように貢献できるかを考えるよい機会になったことと思います。

経済学院・会計専門職大学院では、今後もこうした催しを通じて、地域社会における会計・監査実務の発展に貢献していきたいと考えています。

（経済学院）



講師の住田清芽氏



講演を聞く参加者

医学部が北海道大学医学部・読売新聞連携講座 「中学生のための医療体験～外科手術シミュレーション」を開催

医学部では読売新聞北海道支社との連携講座「中学生のための医療体験～外科手術シミュレーション」を8月18日（日）に開催しました。本連携講座は医療現場を目指す中学生に対し、早期に医療の現場を体験する機会を設け、医学に対する関心を高めるとともに、医療分野等での人材育成を図るた

め企画されました。

今回参加した中学生達には、医学研究院内クリニカルシミュレーションセンターでの持針器を使った皮膚縫合、北海道大学病院手術室での尿管鏡での結石除去及び手術支援ロボット「ダビンチ」を実際に使用してのトレーニング等を体験してもらいました。当日は

28名の中学生が参加し、3時間以上に亘る活気のあるイベントとなりました。参加者は、実際の医療現場を体験することにより多くの刺激を受け、将来医療の道へ進みたいという気持ちを再認識する方が多かったようです。

（医学院・医学研究院・医学部）



手術支援ロボット「ダビンチ」でのトレーニング



尿管鏡での結石除去トレーニング



皮膚縫合トレーニング

薬学研究院が「第14回薬学研究院研究発表会」を開催

薬学研究院では、8月2日（金）に、薬学研究院臨床薬学講義室において、「第14回薬学研究院研究発表会」を開催しました。本発表会は、教員のプレゼンテーション能力向上及び、他分野の研究に関する理解を深めることによる共同研究の活性化を目的として、平成24年度に始まり、FD研修会を兼ねて、年2回実施しています。

発表会は、佐藤美洋薬学研究院長による開会挨拶の後、衛生化学研究室の鍛代悠一助教から「Elucidation of the antitumor drug-induced activation of antitumor immunity」と題した研究発表、次に薬剤分子設計学研究室の山田勇磨准教授から「ミトコンドリアを標的とするナノ医薬品の創製」と題した

研究発表が行われました。

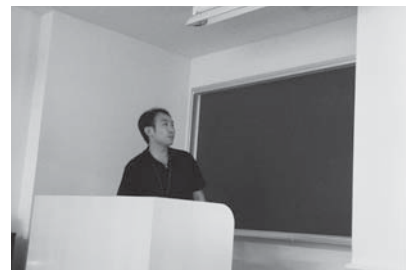
本発表会には、教員50名が参加し、様々な分野の教員から発表者への質問があり、活発な討論が交わされました。また、参加者へのアンケートから得た発表に関する感想や改善点等のアドバイスを発表者へフィードバックすることにより、プレゼンテーションの

向上に役立てています。教員の異分野への知見の拡大やプレゼンテーション能力の向上に、また共同研究の活性化に繋がる非常に良い機会であり、大変有意義な会となりました。次回は2020年3月に開催予定です。

（薬学研究院・薬学部）



鍛代助教による研究発表



山田准教授による研究発表

工学研究院等安全衛生管理室で企業等見学研修会を実施



参加者集合写真

工学研究院等安全衛生管理室では、7月31日（水）に、北海道電力株式会社石狩湾新港発電所（小樽市）において、企業等見学研修会を実施しました。

本研修会は、企業の見学を通して、安全衛生管理について理解を深め、工学研究院、情報科学研究院及び量子集積エレクトロニクス研究センター等における安全衛生管理に資することを目的としたものです。

本研修会では16名の参加者が、①安全教育、②安全管理、③消防訓練、④

その他社での安全に関する取り組みについての見学を行い、また、発電所の概要を含めた説明を受けました。

参加者からは、企業の安全教育、安全管理などが高いレベルで実施されており、非常に有意義であった旨の感想がありました。

工学研究院等安全衛生管理室では、来年度以降も企業等見学研修会を実施していく予定です。

（工学研究院、情報科学研究院、量子集積エレクトロニクス研究センター）



施設説明を受ける参加者



発電所の概要説明を受ける参加者

国際広報メディア・観光学院がフィンランド・ヘルシンキ大学及び豪・メルボルン大学との教育・研究交流「TLLPスタディ・ウィーク」を開催



参加者集合写真



発表風景

国際広報メディア・観光学院では、6月24日（月）から26日（水）まで「タンデム・ランゲージ・ラーニング・プロジェクト（Tandem Language Learning Project: TLLP）スタディ・ウィーク」を開催しました。

TLLPとは、国際広報メディア・観光学院、メディア・コミュニケーション研究院、英国シェフィールド大学、リーズ大学、フィンランド・ヘルシンキ大学、オーストラリア・メルボルン大学の間で行われている研究教育の交流プログラムです。その目的は、①学生・教員を含めた双方の研究交流及び研究ネットワークの構築、②研究遂行（データ収集、インタビュー、研究発表、研究討論）のために必要となるアカデミックな言語スキルの獲得にあります。具体的な教育プログラムの内容は、両大学の大学院生同士がペアを組み、互いに相手の研究、発表のサポー

トをするタンデム・ラーニング、またその進展をオンライン上で支援する教員のアドバイス・システムが中心です。さらに、相互に相手の大学を訪問して研究発表や教育交流を行う「TLLPスタディ・ウィーク」を年に1回開催しています。

今回本学で開催されたスタディ・ウィークには、ヘルシンキ大学から大学院生3名、メルボルン大学から大学院生3名と教員2名が参加し、本学院から参加した大学院生6名とともに、学生による研究発表やディスカッション、教員による講義など、様々な研究・教育交流を行いました。TLLPの趣旨に基づき、本学の学生は英語で、ヘルシンキ大学及びメルボルン大学の学生の多くは日本語で研究発表を行いました。本学院の教員や学生などの多くが発表を聴講し、活発な意見交換や今後の研究のためのアドバイスがされ

ました。発表した学生は別のセッションの司会も担当し、学会などのセッションでの司会進行について経験できる良い機会となりました。また、2ヶ月間にわたり、発表要旨、パワーポイント資料、発表原稿などについてお互いの研究をオンライン上で研鑽してきた成果が、スタディ・ウィークで発揮されました。

2014年以降開催されてきたTLLPスタディ・ウィークも今年で6年目を迎えました。来年度は本学院の学生が海外の開催大学に派遣される予定です。今後も国際社会を舞台に活躍する研究者を育成することを目指し、海外諸大学との教育・研究交流を続けていきます。

（国際広報メディア・観光学院、メディア・コミュニケーション研究院）

公共政策大学院が「地方議員・地方公務員のためのサマースクール」を開催 —「北海道における地域防災力向上に向けた課題と対応」について討議—

公共政策大学院（公共政策学教育部・公共政策学連携研究部）では、社会貢献活動の一環として、8月21日（水）・22日（木）に「地方議員・地方公務員のためのサマースクール」を開催しました。

「地方議員向けサマースクール」は、地方分権改革が進む中、ますます重要な役割を果たすことになる地方議会の活性化と議員の自己啓発・自己研鑽に資することを目的に、大学院が取り組むものとしては全国初の試みとして、2008年度からスタートし、2016年度からは地方公務員にも門戸を広げて、開講してきました。

本年度は、昨年9月に発生した北海道胆振東部地震や2016年北海道豪雨災害等、北海道において災害により尊い人命が失われるとともに、経済社会活動において極めて大きな被害をもたらされた経緯を踏まえ、地域防災力の向上に向けた課題と対応方策をテーマとして取り上げました。参加者は道外か

らを含め、地方議員57名（1日コース35名、2日コース22名）、地方公務員27名となりました。

プログラム第1日目は座学での講義を行い、北海道大学広域複合災害研究センターの岡田成幸特任教授から「地域防災力向上に向けて」、岩手大学地域防災研究センター客員教授を務められている岡本 正弁護士から「災害復興法学のすすめ—生活再建と知識の備えの防災教育—」、北海道総務部危機対策局の辻井宏文局長から「北海道胆振東部地震の検証と今後の対応について」と題して、ご講演いただきました。

プログラム第2日目は、5つのグループに分かれて「地域防災力の向上」をテーマとして、午前中はワークショップ型式でグループ討議を行い、午後からは、全体での討議を行いました。なお、今年度より初の試みとして、地方議員と地方公務員が一緒のグループで討議を行ったため、「地域防災力の向

上」に関わる広範な事項に議論が及ぶとともに、全体討議の最後には、「防災力向上のための地方議員の役割とはいかなるものか」について、熱い議論が展開されました。

受講者からのアンケートによると、座学及びグループ討議いずれも、おおむね高い評価となっており、議員と職員がともに学び、情報を交換し、議論することができる当スクールのような場が強く求められていることが明らかになっています。

本サマースクールが、受講者が最新の新たな知見を得るとともに、お互いに親密なネットワークを形成し、今後とも情報交換を重ねながら、地域の活性化・振興などに取り組んでいくために大きな貢献ができるよう、改善を重ねながら、引き続き開催していく予定です。

（公共政策学教育部・公共政策学連携研究部）



岡田特任教授による講義



岡本弁護士による講義



辻井局長による講義



グループ討議の様子



全体討議の様子

電子科学研究所と創成研究機構グローバルファシリティセンターが共催で技術職員向けSD研修を開催

8月21日（水）、電子科学研究所において、技術職員SD研修を開催しました。

本研修は電子科学研究所と創成研究機構グローバルファシリティセンターが共催し、学内から技術職員を中心として31名が参加しました。

第1回目となる今年度の研修は、パートⅠ：組織で働くために必要な基礎力、パートⅡ：部下の能力を引き出すマネジメント力の2部構成で行いました。

主に5人一組のグループワーク形式で様々なゲームやロールプレイングを通じながら、大学技術系職員に不足しがちであるビジネスマナー力の基礎、コミュニケーション力・マネジメント力などの土台を学ぶ研修となりました。

特に、複数の制限がある中でミッションをクリアする「報連相ゲーム」は非常に難易度が高く、集中して取り組む姿が見られ、その意義をゲーム後に学ぶことで、重要な気づきを得られました。

また、本研修の特徴は、技術職員と

事務職員が主体となり、講師とともに今まさにその組織に必要なカリキュラムを検討するオーダーメイド型研修であることや、幅広い職階の技術職員が同時に研修を受けられることがあり、複数年単位の計画を継続的に実行・段階的にスキルを高めていくことで、さらに高い効果が期待できることです。

技術系職員が持つ高い技術をより発展させ伝承していくためにも、インターパーソナルスキルを向上させ、本学の高度な研究・教育基盤をしっかりと支えていきたいと考えています。

（電子科学研究所，創成研究機構グローバルファシリティセンター）



パートⅠ：ストロータワーゲームの様子



パートⅡ：報連相ゲームの様子



グループディスカッション



研修会場の様子

北方生物圏フィールド科学センター水圏ステーション臼尻水産実験所 竣工披露記念式典・祝賀会を挙げる

北方生物圏フィールド科学センターでは、水圏ステーション臼尻水産実験所の竣工を祝い、7月30日（火）に、披露記念式典・祝賀会を開催しました。臼尻水産実験所は、昭和45年に水産学部の学生実習及び教員、大学院生が海洋生物学を学ぶ学部附属施設として設立され、平成13年に学内共同教育研究施設北方生物圏フィールド科学センターの設置に伴い同センター水圏ステーションに統合されましたが、近年施設の老朽化が進んだことから、本年5月より新営工事が行われていました。

当日は、函館市臼尻町の臼尻水産実験所にて、宗原弘幸所長から実験所の概要や実施されている研究の説明が行われ、約40名の出席者は、海に面した建物の外観や各施設を見学しました。その後、函館市内のホテルに会場を移

し、記念式典と祝賀会を開催しました。式典の冒頭では、佐藤冬樹センター長の式辞に続き、木村暢夫水産科学研究院長から祝辞が述べられ、嵯峨直恆名誉教授（函館国際水産・海洋都市推進機構長）の祝杯の発声で歓談に入りました。途中で、宗原所長から実験所の歴史・活動に関する紹介があり、最後に普段から実験所の活動にご協力いただいている鎌田光夫南かやべ漁業協同組合代表幹事組合長の乾杯に

より、盛会のうちに閉会となりました。出席者は一日を通して、函館地区における今後の地域の発展について、産官学の交流を行っていました。

新しい実験所は、これまで以上に教育・研究・地域に貢献し発展していくことが期待されます。

（北方生物圏フィールド科学センター）



宗原所長による実験所紹介



佐藤センター長による式辞



木村水産科学研究院長による祝辞



交流を行う出席者



新臼尻実験所の外観

北大農場公開2019 「未来農業ロボットトラクタ」を開催

8月2日（金）、北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場において、農場公開を行いました。農場では、毎年テーマを決めて施設や教育研究活動を公開しています。今回は、近年飛躍的に発展した農業機械について最新のシステムを紹介し、体験してもらうプログラムを企画しました。当日は、オリエンテーションの後、ロボットトラクタについての解説及び実演、自動操舵トラクタの体験試乗、ロボットコンバインの見学、農場生産物の試食を行い、道内各地から小学生とその保護者を中心に4組7名が参加しました。

オリエンテーションでは、管理棟庁舎屋上から実験圃場で試験栽培されている青々とした作物やのんびりと放牧されている牛を眺めながら、全国の大学でも都心に農場があるのは稀であることなどを山田敏彦農場長から説明しました。また、ロボットトラクタについての解説では、農学研究院・岡本博史准教授から、機械化農業により一人当たりの耕作面積が拡大し生産性が高まった一方、後継者不足や高齢化などにより農家人口が減少し食料の安定供給が危ぶまれていること、未来の農業に向けて最新の「ICTを活用したスマート農業（農業のロボット化）」によって様々な問題を解消するための取り組みを進めていることについて講義が行われました。

その後、無人トラクタを倉庫前から

作業を行う畑まで自動で走行させ、走行時に人がトラクタ前方に近づくと障害物を感知し緊急停止（ブザーが鳴りトラクタ上部のパトライト赤ランプが点灯）する様子、狭い農道を逸れることなくプログラム通りに移動できる正確性、除草作業の様子などをトラクタと一緒に歩きながら見学しました。また、自動走行するトラクタへの乗車体験も実施し、普段乗り慣れている車とは違った高い座席からの広い視野や、力強いトラクタのエンジン音や振動を直に体験しました。

ロボットコンバインの見学では、機械を動かしながらどのような動きをするのかについて解説を行ったところ、

参加者は、見慣れない機械の動きに興味深く見入っている様子でした。最後に、農場で作られているアイスクリームの試食を行い、全ての予定を終了しました。

参加者は熱心に話を聞き多くの質問をするなど強い興味を持たれたようで、夏休みの自由研究にも役立つ体験となったようです。今後も農場公開を通して、「農業における機械の役割や重要性」をはじめ様々な教育研究活動を紹介し、農業や食料生産について考える機会を提供していきます。

（北方生物圏フィールド科学センター）



屋上でのオリエンテーション



岡本准教授による講義



無人走行の見学



自動操舵トラクタの試乗

北方生物圏フィールド科学センター植物園で小学生向け公開講座「葉っぱで作る植物図鑑」を実施

北方生物圏フィールド科学センター 耕地圏ステーション植物園では、7月30日（火）・31日（水）の2日間にわたり、大学等地域開放特別事業「葉っぱで作る植物図鑑」を開催しました。

この企画は、例年同時期に、小学生を対象として実施しており、本年度も

2日間で4回（1日2回）、合計38名の小学生が参加しました。

両日とも天候に恵まれ、参加者たちは園内でハルニレの観察や葉っぱの収集を行った後、室内に入り、職員の指導により図鑑づくりに取り組みました。

植物園では、3月にも小学生を対象とした「冬の植物園 ウォッチングツアー」の実施を予定しています。

（北方生物圏フィールド科学センター）



職員の説明を熱心に聞いてメモを取る参加者たち



ハルニレの大きさを体感する参加者たち



室内で図鑑づくりに取り組む様子

「物理」「数学」「統計学」「化学」入門図書展示を開催

7月1日（月）から8月19日（月）にかけて、附属図書館（北図書館）において、「物理」「数学」「統計学」「化学」入門図書展示を開催しました。これは、ラーニングサポート室と連携して実施したものです。

ラーニングサポート室スタッフが推薦する「数学（線形代数学・微分積分学）」「物理学（力学）」「統計学」「化学」それぞれの入門図書を、紹介者のオススメコメントとともに展示しました。併せて、ラーニングサポート室でも配布している学習ガイド「物理のコツ」「統計学のススメ」と附属図書館利用支援課学習支援企画担当が作成した「北大1年生のためのレポート書き方ガイド」を、自由に持ち帰り可能な

形で配布しました。

期間中は展示図書35点のうち25点が借り出されたほか、ガイドも頻繁に補充が必要なほど持ち帰られ、学生の学

習に大いに役立ったことがうかがえました。

（附属図書館）



図書展示の様子



「北極基礎市民講座～北極の不思議 もっと知ろうその魅力～」 第2回講座を開催

8月9日（金）、北極域研究共同推進拠点*主催、日本極地研究振興会共催で、複数の民間企業の後援を受けた産学連携体制により「北極基礎市民講座～北極の不思議 もっと知ろうその魅力～」第2回講座を東京にて開催しました。本講座は北極に関連するテーマを網羅する市民講座としては初めてのものです。今年度6回開催し、1回2テーマで計12のテーマを挙げて行うプログラムとなっています。これらを全部聴講すると、現在注目されている北極に関する分野について、ほとんど全ての課題の理解が深まるプログラム構成になっています。

今回の講座では、「海の生態系」については「海氷減少と食物連鎖」を題材に、また「大気」については「北極の気象・気候についてわかっていること/いないこと」を題材として取り上げました。参加者は10代から70代までと幅広く、北極域の温暖化メカニズム

とその生態系への影響、微生物からホッキョクグマにいたる多様性とその食物連鎖の変化の可能性など、多くの興味深い話題をわかりやすく親しみやすく聞いて理解が深まったとの意見が聞かれました。また、一度北極に行ってみたいとの気持ちがより強くなったなどの感想も寄せられました。

北極は地球温暖化の影響を顕著に受け、海氷減少や生態系の変化、更には海洋や大気を通じて地球規模の変動を起こす可能性があります。一方では、このような環境変化は北極海航路や石油・天然ガスなどの資源開発を促進させるとともに、環境汚染、動植物の生態系や人間社会への影響、それに国家間の摩擦などを引き起こす可能性もはらんでおり、持続可能な社会・経済活動に向けて北極諸国だけでなく周辺国も巻き込んだ国際協力が必要となっています。

以上のような状況を受け、本講座は

自然科学だけでなく工学、人文社会科学を含む第一線の専門家より最新情報をわかりやすく解説します。北極の将来に向け新たな視点で見つめていただきその魅力を知ってもらい取組を通して、日本が北極に関する研究を行うことの重要性を認知してもらいことを狙いとしています。次回は10月9日（水）の開催です。今後もご期待いただきたいと思います。

*北極域研究共同推進拠点

国立大学法人北海道大学北極域研究センター（中核施設）、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所国際北極環境研究センター（連携施設）、国立研究開発法人海洋研究開発機構北極環境変動総合研究センター（連携施設）の3機関による連携ネットワーク型の共同利用、共同研究拠点。

（北極域研究センター）

<プログラムとテーマ>

- 第1回 2019年6月21日（金）「地理と歴史」、「陸の生態系」
- 第2回 2019年8月9日（金）「海の生態系」、「大気」
- 第3回 2019年10月9日（水）「海洋」、「氷河・氷床」
- 第4回 2019年12月3日（火）「北極ロシア資源開発」、「北極北欧資源開発」
- 第5回 2020年1月27日（月）「北極海航路とその利用」、「エネルギー輸送」
- 第6回 2020年3月27日（金）「ガバナンス」、「人間と社会」

<申込・詳細>

<https://j-arcnet.arc.hokudai.ac.jp/news/22012/>



質疑応答の様子（テーマ：北極の「海の生態系」）



講義の様子（テーマ：北極の「大気」）

1960年代学生資料を大学文書館で受贈

8月15日（木）、大学文書館では、小笠原正明名誉教授から、1960年代の在学関係資料3箱をご寄贈いただきました。

小笠原名誉教授は、岩手県立盛岡第一高等学校を卒業後、1962（昭和37）年教養部理類に入学、理学部化学科、大学院理学研究科修士課程において、学生生活を送られました。

この度受贈した資料は、（1）受講ノート、（2）日記・日誌、（3）「北海道大学新聞会」の編集部・主任会議の配布資料、（4）修士論文「スチレンのパルスラジオリシス」の手書き原稿、（5）印刷物（大学祭ニュース・プログラム、合唱団の発表会プログラム・楽譜、化学科移行生歓迎会の冊子、新聞、ビラ）等です。

受講ノートには、教養部の講義（人類学、西洋史、社会思想史、東洋史、外国文学、独語、英語、自然科学概論、有機化学、心理学、統計学、物理学）と、理学部の講義（分析化学、物理数学、量子化学、有機化学通論）のノートがあります。

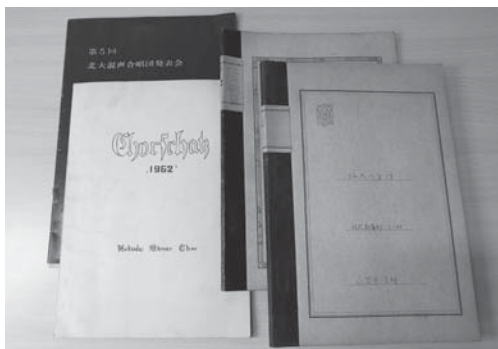
日記・日誌には、教養部1年20組の学生の頃に記された日記「北大の生活」（1962年4～5月）や、2～3年生の頃の日記（1963～64年）のほか、1962～64年にかけて所属し、その活動を支えた「北海道大学新聞会」の日誌などが含まれています。

日記「北大の生活」には、家計簿、朝・昼・夕・補食等の食事記録、履修状況・学修の進捗、家族宛ての手紙の控え、出来事・随筆等が、1日1ペー

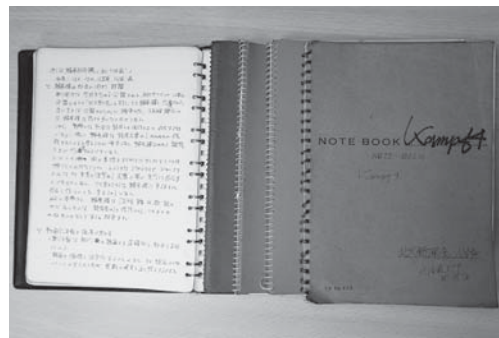
ジの割合で細やかに記されています。日記からは、早朝の学内ランニング、巖鷲寮での寮生活、授業後の各種サークル（新聞会、合唱団、社会科学研究会等）への参加など、意欲的な大学生生活を送っている活発な1年生の姿が浮かび上がってきます。

今後、ご寄贈いただいた資料は大学文書館の沿革資料室収蔵庫において大切に保管し、整理作業を進めて、常設展示「北大生の群像——北大150年の群像」（大学文書館1階展示ホール）や企画展示などにも反映させていきます。

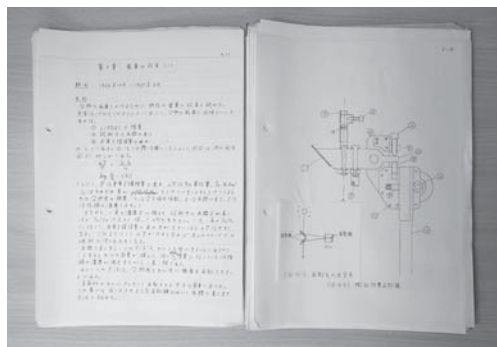
（大学文書館）



合唱団のプログラム・楽譜と生活日記



新聞会の活動日誌（1962-64年）



修士論文の原稿（1967年12月）

■レクリエーション

令和元年 第49回 札幌社会人サッカーリーグに出場

5月12日（日）から9月1日（日）の日程で令和元年第49回札幌社会人サッカーリーグに出場しました。

最上位のSリーグから新規加入チームによるライラックリーグまで、全10部・93チームで構成されるリーグ戦で、教職員サッカークラブはBリーグ1部に所属し、7勝2敗の成績の3位で全日程を終えました。対戦成績は以下のとおりです。

また、北大教職員サッカークラブは夏場のサッカーだけでなく、11～3月にかけては屋内でフットサルの活動もしており、札幌社会人フットサルリーグにも参加しております。

サッカーやフットサルの活動の詳細は、ホームページからご確認いただけます。興味のある方は、お近くの部員かホームページの問い合わせ先までご連絡ください。

北大教職員サッカークラブHP：<http://hokudaikyousyokuinssc.web.fc2.com/>

(教職員サッカークラブ)

5月12日	教職員サッカークラブ	11 - 0	FC Turtoise sapporo
5月26日	教職員サッカークラブ	6 - 1	ほくでん情報Vestal
6月9日	教職員サッカークラブ	2 - 0	BABE
6月23日	教職員サッカークラブ	11 - 1	AOTO
6月30日	教職員サッカークラブ	5 - 1	HOKKAIDO BANK FC
7月14日	教職員サッカークラブ	7 - 0	JEEP-FC
8月4日	教職員サッカークラブ	1 - 3	Northern Light City
8月25日	教職員サッカークラブ	4 - 0	LooP
9月1日	教職員サッカークラブ	1 - 3	AFCアヤックス



集合写真

学内教職員ソフトボール大会の開催

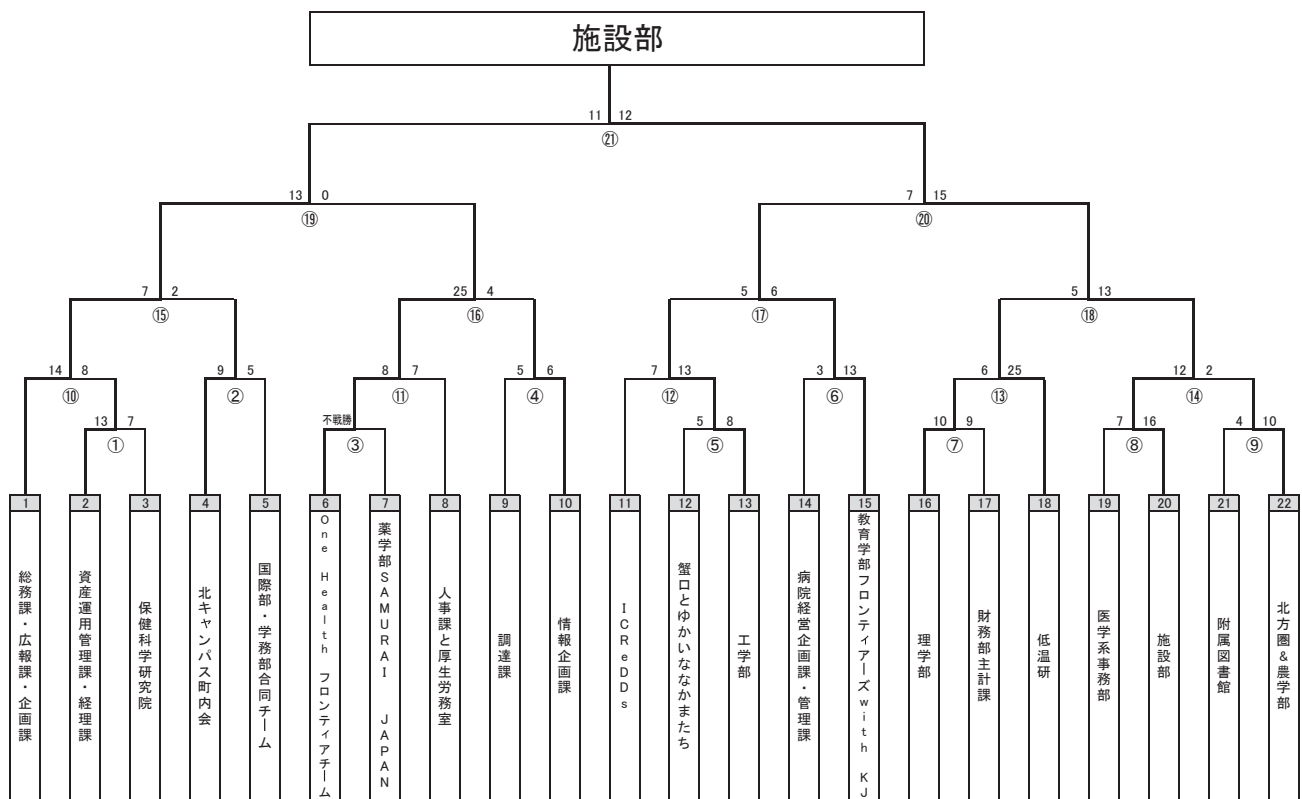
学内教職員ソフトボール大会を、6月11日（火）から9月2日（月）の約2ヶ月半にわたり、北海道大学B球場で開催しました。

参加22チーム・約400名の選手により、連日熱戦が繰り上げられました。選手のみならず、応援の方々のたくさんの歓声があふれる中、「施設部」チームが見事に栄冠を勝ち取りました。

なお、対戦結果は以下のとおりとなっています。

（全北大野球部、Re-birth）

令和元年度 教職員ソフトボール大会



優勝「施設部」チーム



準優勝「総務課・広報課・企画課」チーム

令和元年度学内バレーボール大会の開催

職員レクリエーションの一環として例年実施しているバレーボール大会を7月26日（金）から8月8日（木）まで、第2体育館で開催しました。

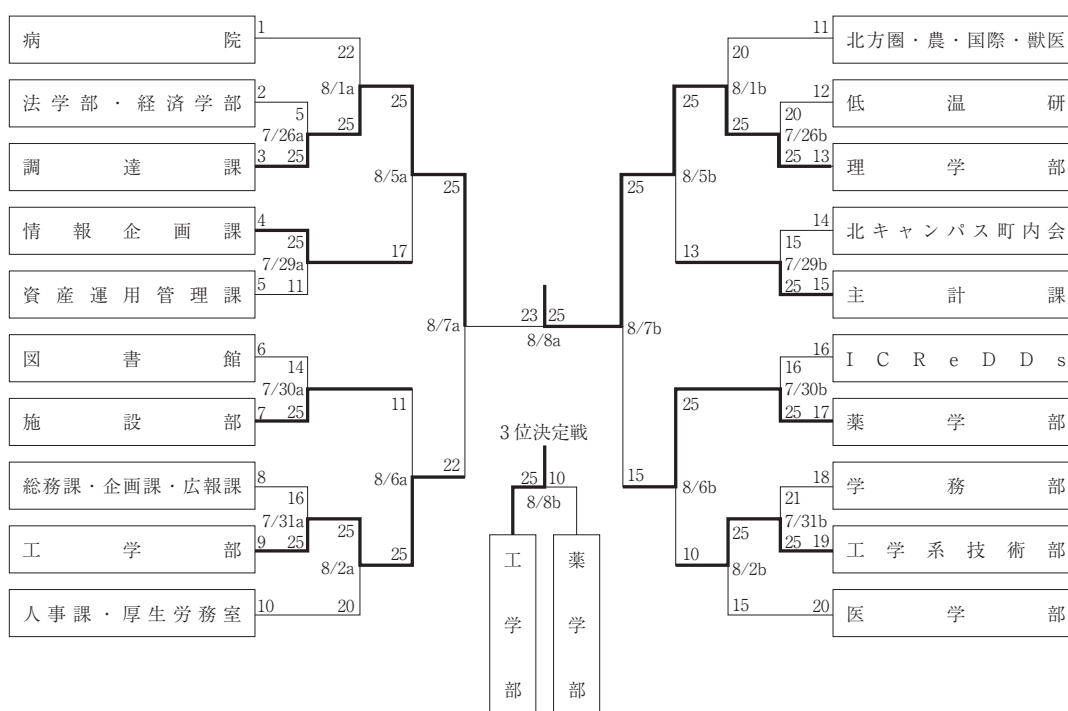
今年度も多くの若手職員が参加し、活気あふれる大会となりました。

結果は以下のとおりです。毎年安定した実力を発揮する理学部が調達課との接戦を制し、優勝を果たしました。

北大職員排球部では、学校開放を利用した練習（月1回程度）を行っています。興味がある方は、お近くの職員排球部員までお知らせください。

（職員排球部）

令和元年度 学内バレーボール大会



優勝 理学部

大会結果

- 優勝 理学部
- 準優勝 調達課
- 第3位 工学部
- 第4位 薬学部



準優勝 調達課



3位 工学部



4位 薬学部

教職員テニス大会の開催

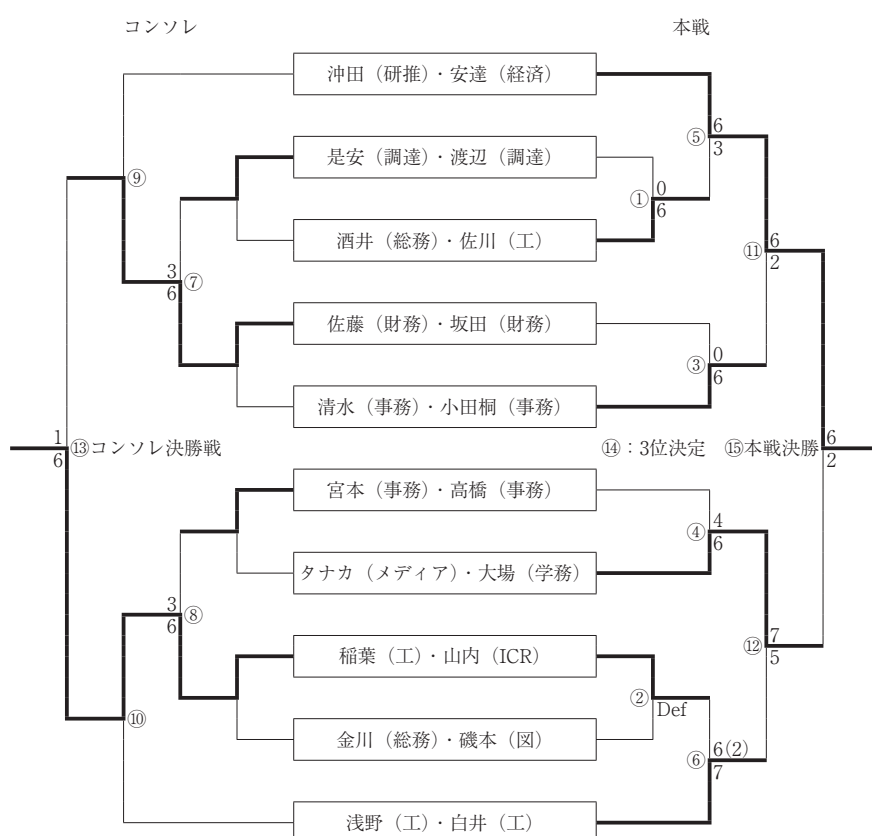
8月3日(土)、工学部・農学部・低温科学研究所の各コートで職員硬式庭球同好会主催により、学内ダブルス大会を開催しました。

参加者は総勢48名で、結果は次のとおりです。

(職員硬式庭球同好会)

令和元年度 学内ダブルス大会結果

【男子A級】会場：工学部コート



優勝	沖田(研推)・安達(経済)
準優勝	タナカ(メディア)・大場(学務)
3位	浅野(工)・白井(工)
コンソレ優勝	稲葉(工)・山内(ICR)

3位決定	清水(事務)・小田桐(事務)	4
	浅野(工)・白井(工)	6



男子A級優勝

【男子B級】会場：農学部ハードコート

氏名	鈴木平野	宮崎江崎	吉村森井	勝：負 (ゲーム数)	順位
鈴木 敦生(理) 平野 亮(経済)		6-2 6-3 ○	0-6 0-6 ×	1-1	2
宮崎 脩平(総務) 江崎 公二(総務)	2-6 3-6 ×		2-6 0-6 ×	0-2	3
吉村 高明(保健) 森井 康博(保健)	6-0 6-0 ○	6-2 6-0 ○		2-0	1



男子B級優勝

【男子C級】 会場：農学部ハードコート

氏名	佐藤 斎藤	関根 金子	鎌田 今城	勝：負 (ゲーム数)	順位
佐藤 陽亮 (低温) 斎藤 史明 (低温)		2-6 6-4 4-6 ×	6-0 3-6 1-6 ×	0-2	3
関根 茂樹 (病院) 金子 拓真 (工)	6-2 4-6 6-4 ○		6-4 7-6 ○	2-0	1
鎌田 慎平 (工) 今城 颯太 (工)	0-6 6-3 6-1 ○	4-6 6-7 ×		1-1	2



男子C級優勝

【女子A級】 会場：低温科学研究所コート

予選リーグ

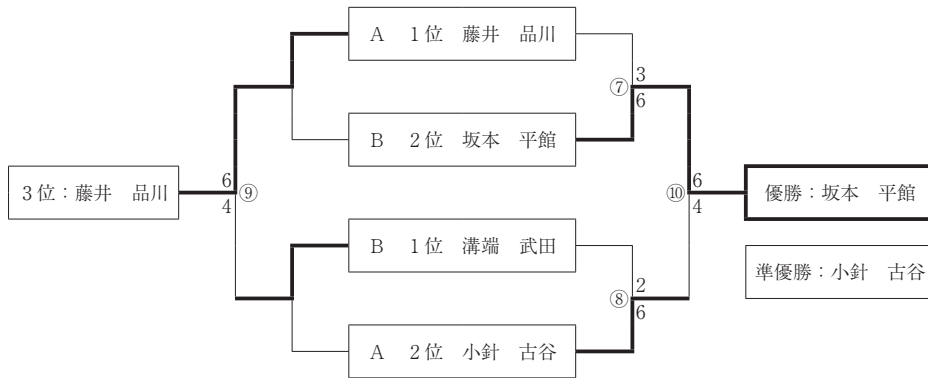
Aブロック

氏名	中山 三浦	小針 古谷	藤井 品川	勝：負 (ゲーム数)	順位
中山 琴絵 (事務局) 三浦 千穂 (図書館)		6-4 ○	0-6 ×	1-1 6/16	3
小針 実布子 (理) 古谷 久美子 (図書館)	4-6 ×		6-5 ○	1-1 10/21	2
藤井 恵美子 (工) 品川 和絵 (薬)	6-0 ○	5-6 ×		1-1 11/17	1

Bブロック

氏名	平館 坂本	溝端 武田	山田 湯原	勝：負 (ゲーム数)	順位
平館 真希子 (図書館) 坂本 ゆう子 (図書館)		3-6 ×	6-1 ○	1-1	2
溝端 小百合 (事務局) 武田 晶子 (学生)	6-3 ○		6-5 ○	2-0	1
山田 美和 (電子) 湯原 綾子 (低温)	1-6 ×	5-6 ×		0-2	3

決勝トーナメント



女子A級優勝

【女子BC級】 会場：低温科学研究所コート

氏名	松原 西川	角家 小林	上田 鈴木	勝：負 (ゲーム数)	順位
松原 友姫 (教育) 西川 はつみ (低温)		6-0 ○	6-1 ○	2-0	1
角家 由紀子 (学務) 小林 まどか (メディア)	0-6 ×		6-4 ○	1-1	2
上田 のぶ (学務) 鈴木 里奈 (文)	1-6 ×	4-6 ×		0-2	3



女子BC級参加者

■ 学内規程

国立大学法人北海道大学創成研究機構規程の一部を改正する規程

(令和元年9月1日海大達第163号)

創成研究機構に置く評価委員会の組織を変更することに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学職員給与規程の一部を改正する規程

(令和元年9月1日海大達第164号)

令和元年9月1日付けで、放射性同位元素等の規制に関する法律施行規則（昭和35年総理府令第56号）が施行されることに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学放射線障害予防規程の一部を改正する規程

(令和元年9月1日海大達第165号)

令和元年9月1日付けで、放射性同位元素等の規制に関する法律（昭和32年法律第167号）及び放射性同位元素等の規制に関する法律施行規則（昭和35年総理府令第56号）が施行されることに伴い、所要の改正を行ったものです。

■ 研修

研修名：令和元年度北海道地区国立大学法人等中堅職員研修

開催期間：令和元年8月28日～30日

開催場所：クラーク会館大集会室1

研修目的：北海道地区国立大学法人等の中堅職員としての立場と責務を自覚させるとともに、職務に対する知識を深め、企画力及び問題解決能力の向上を図ることを目的とする。



開講挨拶・特別講話
(関 靖直理事・事務局長)



講義・実習
(特定非営利活動法人 手と手)



講義・グループワーク
(株式会社フォーブレン)

(総務企画部人事課)

表敬訪問

海外

年月日	来訪者	来訪目的
1.8.5	オックスフォード大学（イギリス）Sarah Rowland-Jones 教授, Simon J Davis教授	両大学の交流に関する懇談
1.8.29	アフリカ地域持続可能な開発目標センター（SDGC/A）Belay Begashaw総裁	両地域の交流に関する懇談



オックスフォード大学（イギリス）
Sarah Rowland-Jones教授（中央左）、
Simon J Davis教授（右側）



アフリカ地域持続可能な開発目標センター
（SDGC/A）Belay Begashaw総裁（中央右）

（国際部国際連携課）

人事

令和元年8月19日付発令

新職名（発令事項）	氏名	旧職名（現職名）
【教授】 大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授	中山 元太郎	環境省大臣官房付

令和元年8月26日付発令

新職名（発令事項）	氏名	旧職名（現職名）
【教授】 （辞職）	榎本 芳人	大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授

令和元年9月1日付発令

新職名（発令事項）	氏名	旧職名（現職名）
【部局長・施設長等】 大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター長 （期間：令和3年7月31日まで）	城戸 亮	大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授
【教授】 大学院法学研究科教授 大学院情報科学研究科教授 大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授	松尾 誠紀 堀山 貴史 中園 和貴	採用 埼玉大学大学院理工学研究科准教授 厚生労働省年金局総務課長補佐

新任部局長等紹介

令和元年9月1日付

大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター長に



きど あきら
城戸 亮 教授

令和元年8月26日限りで榎本芳人大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター長が辞任したため、その後任として城戸亮教授が発令されました。

任期は、令和3年7月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和39年
 平成元年3月 京都大学法学部卒業
 平成29年3月 横浜国立大学大学院国際社会科学研究所博士課程後期単位取得退学
 平成元年4月 } 民間企業勤務
 平成2年11月 }
 平成3年4月 労働省入省
 平成9年9月 人事院短期在外研究員（LSE客員研究員）
 平成10年4月 外務省国際社会協力部専門機関行政室ILO担当
 平成11年7月 労働省鳥取労働基準局監督課長
 平成12年4月 労働省鳥取労働局総務部長
 平成14年8月 厚生労働省社会保険庁運営部年金保険課課長補佐
 平成16年7月 厚生労働省大臣官房国際課課長補佐
 平成19年8月 総務省人事・恩給局調査官（労働・国際・争訟担当）
 平成24年7月 総務省国際統計管理官（政策統括官付）
 平成25年6月 内閣官房行政改革推進本部事務局参事官
 平成26年7月 内閣府大臣官房総務課参事官（官民人材交流センター担当）
 平成28年8月 内閣府官民人材交流センター総務課長
 平成30年4月 総務省公害等調整委員会事務局総務課長
 令和元年8月 北海道大学大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授

新任教授紹介

令和元年8月19日付



公共政策学連携研究部
附属公共政策学研究センター教授に

なかやま げん たろう
中山 元太郎 氏

生年月日

昭和43年3月18日

最終学歴

早稲田大学政治経済学部卒業（平成5年3月）

専門分野

政治学（環境政策他）

令和元年9月1日付



法学研究科教授に

まつお もとのり
松尾 誠紀 氏

法学政治学専攻現代法講座

最終学歴

北海道大学大学院法学研究科博士後期課程修了（平成17年3月）
博士（法学）（北海道大学）

専門分野

刑法学



情報科学研究院教授に

ほりやま たかし
堀山 貴史 氏

情報理工学部門
知識ソフトウェア科学分野

最終学歴

京都大学大学院工学研究科修士課程修了（平成9年3月）
博士（情報学）（京都大学）

専門分野

計算機科学，アルゴリズム，計算幾何学



公共政策学連携研究部
附属公共政策学研究センター教授に

なかのぞの かずたか
中園 和貴 氏

専門分野

社会政策，社会保障

編集メモ

● 9月になり、キャンパスは秋の彩りをまとい始める季節となりました。紅・黄・緑のコントラストが美しく映える季節も間近に迫っています。

● 広報誌「リテラポブリ第63号」を発行しました。

今月号の特集ページでは、“支える”

をテーマに、「植物園」「学生相談総合センター」「アイソトープ総合センター」を取り上げています。ぜひご覧ください。

◆ <https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/litterae.html>



2017.9.4 函館本線 倶知安～小沢（倶知安町）

北の鉄道風景 78 初秋の山線を往く特急列車

「山線」の通称で呼ばれることもある函館本線の長万部～小樽間。現在は普通列車が走るだけのローカル線区であるが、国鉄分割民営化の直前までは、札幌と函館を結ぶ特急〈北海〉や急行〈ニセコ〉といった優等列車も同区間を往来していた。これらが廃止された昭和61年から26年が経過した平成24年、同区間を経由する札幌－函館間の臨時特急列車が期間

限定で運行された。それ以来、山線を経由する臨時特急列車の運行が同様の形態で、今年に至るまで継続されている。写真は初秋の山線を往く特急〈ニセコ〉、かつて山線を走った急行〈ニセコ〉のリバイバルトレインとして運行された臨時特急列車である。

情報科学研究院 准教授 山本 学

北大時報 ⑨ No.786 令和元年9月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html